

ひらか 連携ニュース

昨年度のセミナーでは、緩和ケアチームの武田先生より、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)の概念や重要性についてご講演をいただき、参加者のみなさんより大変好評をいただきました。今回は「事例を紹介してほしい」「具体的な実践方法を身につけたい」という希望が多く寄せられたため、今年度はACPの実践編として、事例検討と武田先生のご講演を企画しました。今回はセミナーの内容について、その一部をご報告します。

地域医療連携セミナーを開催しました！

日 時：令和1年12月13日(金) 18:30～
 場 所：平鹿総合病院 講堂
 参加職種：医師・薬剤師・保健師・看護師・看護師・理学療法士・MSW
 ケアマネージャー・介護ヘルパー・施設管理者・行政担当者等
 参加者：74名



テーマ： ACPのすすめ方 ～人生会議で患者さんの想いを叶えるために～

1. 事例検討 発表者 4階もり病棟 入退院支援WG 看護師 小林 美子さん
2. 講演 講師 東北大学病院 緩和医療科
平鹿総合病院 緩和ケアチーム 武田 郁央先生
3. 質疑応答



事例検討では病棟看護師より、がん終末期の90代女性で退院後の療養場所が決まらず、退院支援に難渋したケースの紹介がありました。長男と2人暮らしの方で、本人は自宅へ帰りたいのですが、長男の介護に対する不安が強く、施設入所の方針となりました。少しでも本人の希望を叶える方法はないか病棟看護師がケースワーカーやケアマネージャーと連携し、長男と相談したところ、週1回の自宅外泊が叶い、本人も納得することができました。病棟看護師からは、「自宅に帰りたい理由について本人の想いをもっと聞きだし、その想いを長男と共有しながら支援をすすめたらよかった」と振り返りがありました。

武田先生の講演では、「人生会議」という愛称を使いながら、昨年の講義内容の振り返りを含め、疾患ごとのACPのタイミングや具体的なコミュニケーションスキルについて説明をいただきました。もしものときにどうするか、“もしばな”を切り出す際のコミュニケーションの方法を、「最善を期待し、最悪に備える」をキーワードに医師、看護師、介護士それぞれのシチュエーションで、会話形式で教えていただき、大変参考になりました。また、ACPは一人ががんばろうとせず分担して行うこと、集めた情報を全員でつなぎ合わせ、チームプレイを意識することを心がけ、まずは患者・家族、スタッフが皆でテーブルにつき、話し合うことが大切とアドバイスをいただきました。 **人生会議、「さあ明日から、早速始めてみましょう！」**



人生会議とは？

もしもの時のために、自分が望む医療やケアについて前もって考え、家族・ケアチームと繰り返し話し合い、共有することです。

厚労省はACPがより馴染みやすい言葉となるよう、「人生会議」と愛称で呼ぶことを決め、医療現場だけでなく、家族会議や食卓などでも身近な場面で話し合えるよう普及・啓発をすすめています。



アンケート結果

- ・前回の内容を振り返りながら受講できた。
- ・事例があったことでより身近に感じられた。
- ・もしもの時どうするか、聞けるときに聞いておいた方がよいことを知ることができた。
- ・どのような形でACPを進めていけばよいか理解できた。
- ・5～6人程度のグループワークで、細やかなケース検討の場があれば、リアルに実感できると思う。
- ・知らなかった用語に触れ、理解することができ、有意義な時間だった。